

令和元年6月5日、総合政策課職員との話です。

## スワローズ、ドラゴンズ、ジャイアンツ？

SDGs（エス ディー ジーズ）をご存知ですか。スポーツの祭典で、SDGsについて尋ねたところ、「スワローズ、ドラゴンズ、ジャイアンツでしょ」とおっしゃった方がいたそうで、「うまい、座布団1枚！」と思いました。

SDGsとは、持続可能な世界の実現するため、国連において全会一致で採択された国際指標で、2030年までに達成を目指す17のゴールが定められています。今月号の6ページでは、環境の視点からの本市の取組を紹介しています。

今年4月、北海道ニセコ町の片山健也町長とお会いする機会がありました。ニセコ町は、内閣府から「SDGs未来都市（SDGsの達成に向けた取り組み、提案を行う自治体）」に選定されています。片山町長は、「SDGsの根本は、『誰一人取り残さない』ということ。多様性を認める、排除しないがキーワードである。人間社会は互いに助け合うから持続するのであって、相互扶助である」と話してくださいました。

片山町長にお会いする前まで、私の中で「持続可能な世界」と「ゴール」が結びつきませんでした。ゴールに向かって一目散に走れば、結果、置いてきぼりになる人や事例が生まれてしまうと思うからです。けれども、「SDGsが目指すところは、誰一人取り残さない。互いに助け合うことである」とお聞きして合点がいきました。昨年10月に本市が開催した「第1回地域共生社会推進全国サミット」において、地域共生のために必要な考え方として、「遠回りするほど おおぜいが楽しめ、うまくいかないことが あればあるほど いろいろな人に役割が生まれる」を掲げましたが、その考え方は「誰一人取り残さない」に合致するともおっしゃっていただきました。本市が行う計画や施設づくりの話し合いは、最初から参加者を限定するのではなく、議論が進んだ途中の回からも参加ができます。一見遠回りですが、より多くの方に関心を持っていただくことこそが、大切だと考えることです。

一人も取り残さないための第一歩は、相手に寄り添う、とことん話を聞くことだと私は思います。しかし、今は、誰もが毎日忙しくて、話を聞いてもらいたくても、「また今度ね」

と言われたり、時間が区切られたりして、じっくり聞いてもらうことが難しいです。引きこもりの問題があります。話を聞く側の価値観で、将来ばかりを気にして先へ先へと追い立てるのではなく、その人の存在そのものを認め、待つことができる、もっと大らかに暮らせる地域を、みなさんと一緒につくっていけるまちにしたいと思っています。

～市長の話を聞いて～

私が、SDGsについて書かれたものを初めて見たとき、前文にある「一地球上の誰一人として取り残さない」という言葉は目に入りませんでした。17のゴールに対して、何ができるかを考えました。片山町長がおっしゃるとおり、「誰一人として取り残さない」を常に頭に置いてなければ、決めたことを実行することが、目的になってしまいがちだと思いました。